

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
訪問調査日	平成 19 年 8 月 31 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成19年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4690100047
法人名	(有)ピースアンドハーモニ
事業所名	グループホームローズタウン
所在地	鹿児島市下荒田二丁目1番1(電話)099-284-1582

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成19年8月31日
評価確定日	平成19年10月24日

【情報提供票より】(平成19年7月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	4 人
常勤換算	7.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(平成19年7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有馬胃腸外科医院 ・ 竹迫歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市内の市電が往来する公共交通の便利な場所にある、グループホームローズタウンは開設2年目を迎えた。ホーム内にはいつも心落ち着く音楽が流れている。今回の調査は、初めてで厳しい内容の自己評価が見られるが、それを活かしステップアップしようとする姿勢が伺える。利用者の要介護度も高くなく、食事時間等に利用者間の会話が見られたり表情も明るく過ごされている。又、利用者と職員と一緒に助け合い買い物・食事の準備や後片付けがみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が始めての外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 初めての自己評価を職員全体で取り組んでいる。厳しく評価して、事業所のステップアップしようとする姿勢がみられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 今まで不定期で3回開催されている。これからは、2ヶ月毎に開催され、この調査を生かし外部評価の改善点なども話し合う機会にしよう期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議や家族会・面会時等に、意見や要望を聞き、職員間でよく話し合い出来るだけ要望に答えられるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に参加している。これからは、事業所に地域の方々が気軽に訪問できる関係を築くことを期待します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は作成されており、利用者、家族、地域、職員が音楽の調べのような調和を目的として作成されている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームに掲げ、会議や日々の申し送りを通して行動を振り返りサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。利用者が地域活動の参加が少ない。祭り・小学校の運動会の見学に行っている。		地域の方々が、事業所に気軽に訪問できる関係を築くことを期待します
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全体で取り組み、意識統一につなげるよう利用し、早々に改善への取り組みに役立てて行うとする取り組みがみられる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事と一緒に計画し、今までに3回開催され、事業所からの報告、家族からの意見・要望等を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務的な用事行き来はあるが、市との連携は積極的に行われていない。		市町村担当者に事業所への訪問依頼し、事業者の考え方や、実態を良く理解してもらい、事業所の問題解決の支援をもらうなどの取り組みが望まれる。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の暮らしぶりや、健康状態についての報告、金銭出納帳の確認等は、面会時や電話で報告されている。また、定期的には、ローズタウン新聞を発行して行事などの報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等があった場合は、管理者へ報告されるとともに、職員全員で対策が検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職時には、職員を増員して利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で行われる研修、施設外での研修もなされている。又、研修報告も行い情報の共有もみられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時には、関連の事業者等を見学したりスタッフ研修を行っているが、開設後は、交流がない。		他事業所の職員との情報交換・勉強会などを通して、サービスの質の向上に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、当施設の雰囲気を感じてもらえる様に、本人に必ず面会したり、見学に来ていただくなど、馴染んでいただくような取り組みがみられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事(料理、アイロンかけなど)を共に行ったり、仏壇を用意されたり、本人の習慣を大切にすることがみられる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちを聞きだす声かけがなされ、利用者の一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者視点への取り組みはなされているが、職員全員の意見・アイデアが反映されてない。		本人や家族の要望を聴き、職員全員で意見交換やモニタリングを行い、介護計画の作成に活かせることを望みます。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直し(3・6ヶ月)に加え、入居者の状態の変化に合わせた見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院の往診がある。家族の要望に応じて病院への送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な診察が行われている。受診時の通院介助、受診結果等の家族への情報伝達をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応の仕方など、本人と家族の意思確認書を作る取り組みの途中である。		重度化した場合や、終末時のあり方について、事業所として対応方針を定め、利用者本人、家族、医師、看護師で十分な協議を重ね意思確認書を作成されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないような声かけケアを行ない、プライバシーの確保や羞恥心への配慮、研修などは行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物、散歩等の対応はみられるが、利用者への働きかけが集団介護的な関わり状態である。		利用者の生活のリズムの中に、本人が主体となる支援が出来るよう、職員同士の工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望を話し合ったり、買物、調理、盛り付け、食事、後片付け等、入居者と職員と一緒にやっている。食事の時も利用者と職員が楽しく語り合い雰囲気づくりが出来ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の方への対応、時間の選択等、又仲の良い方同士一緒に入浴したりと個別的な支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事、アイロンかけ、書道等得意分野を發揮している方もおられる。全体的な支援は職員主体である。		利用者一人一人の習慣、希望、有する力を引き出し、その人らしい役割りや楽しみを支援することを期します。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせてドライブ、美容室、温泉、外食、神社参り、散歩等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件や建物の構造上、安全考慮し、建物・ユニットの玄関はオートロックになっている。		鍵をかけることを常態化させることなく、利用者の外出への思いや傾向をつかみ、職員の見守り方法を徹底し、鍵をかけずに利用者の社会性を大切にしてほしい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、地域の方々の参加を得て実施している。地震・水害等を想定した訓練は、行われていない。非常食の備蓄がない。		火災の夜間想定も予定されているが、避難場所の確認、台風・地震等を想定した自主訓練をされることを期待します。又、非常用食料、備品の準備等も望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を利用者と職員で決めているため、栄養バランスのチェックができていない。		定期的に栄養の専門的な視点からのチェックをしてもらいアドバイスをもらえることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には、心地良い音楽が流れて落ち着いた雰囲気であるが、少し暗く感じられる。座る椅子は、食卓の椅子のみである。		食卓の椅子のみでなく、移動できる心地良い場所作りに、利用者や家族の気づきを聴きながら取り入れる工夫を望みます。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや好みのものを活かした居室づくりができていない。		本人が心地よく過ごせるよう利用者及び家族と相談をしながら、安心して過ごせる居室づくりの工夫を望みます。